

第57回日本透析医学会学術集会・総会

成田 一衛

新潟大学医歯学系内科学第二（腎・膠原病内科）

第57回日本透析医学会学術集会・総会は、平成24年6月22（金）～24（日）北海道札幌市において、久木田和丘先生（札幌北榆病院）を会長として、3,400を超える演題と14,000名を超える参加者を集めて開催された。札幌市内のホテルと公共施設の5カ所を使い、口演25会場、ポスター会場数カ所に分かれ、大変な盛況のなか、また台風4号、5号の影響で天候が心配されたが、涼しい爽やかな北海道の気候のなかで、3日間の学会が滞りなく行われた。学会のテーマは「多彩な病態－三面六臂の血液浄化－」とされ、近年のCKDの概念の普及に伴い大きく腎臓病を捉え、そのなかで腎不全医療を考える必要性や、体外循環技術の進歩により血液浄化療法の治療範囲が拡大されてきたことを表現している。



多数の会場に分かれていたため全体を俯瞰することは困難であったが、透析患者の高齢化・長期化が年々進行しており、これに伴う合併症の病態や対策に関連する話題に多くの関心が集まっていることが感じられた。特にガイドラインが改訂されたCKD-MBDに関するシンポジウムや、腎性貧血に関するセッションは、広い会場に聴衆が入りきらないほどの盛況ぶりであり熱気に満ちていた。透析患者、CKD患者の動脈硬化、異所性石灰化のセッションではFGF23、klothoの動態などの興味深い報告が多かった。

春の北海道のカニとラーメンも堪能し、楽しい3日間だった。今年は福岡で平方会長のもとで開催される。次回のこの学会を楽しみにして、診療と研究に励もうと思わせてくれた学会であった。

